



TOHOKU
UNIVERSITY

2014 東北大学 歯学部

さあ、新しい
インターフェイスの
可能性を開け

世界の歯学をリードする独自の教育カリキュラムで
口腔健康科学を学ぶ



東北大学歯学部で学ぶ世界最高水準の総合教育



東北大学大学院
歯学研究科長・歯学部長

佐々木 啓一

1907年の建学以来、「研究第一主義」の伝統、「門戸開放」の理念、および「実学尊重」の精神を基として発展してきた東北大学に、歯学部が設置されたのは1965年のことです。その後、本学部は2,400名の歯科医師や研究者を輩出してきました。

教育目標は、単に歯科医師の養成にとどまらず、「研究第一主義」にもとづいた論理的な思考力を身につけた指導者となる人材の育成にあります。そのため学生自らが課題を探求し、その解決を図る楽しさを学び、学問に対する自発的な興味と意欲を高め、能動的に学習する習慣が身につくような教育を実践しています。これらは、歯のみに視点をおくことなく、口腔全体の健康維持を目的とした「一口腔一単位」の基本理念、そして患者の身体・精神に眼を向けた「全人的歯科医療」に基づいています。

本学部では、国際的に活躍できる歯科医学研究者や、高い思考力と専門性を備えた高度専門職業人としての歯科医師を養成する体制が整っています。もとより東北大学は、東京帝国大学、京都帝国大学に次いでわが国で3番目に設置された旧東北帝国大学を前身とする総合大学であり、多くの学術的資産と優秀な人材に恵まれ、世界に誇る業績を有します。この伝統ある東北大学に設置された歯学部の教育研究は、世界の歯学を先導するものとして多方面から期待が寄せられています。

仙台は、杜の都として知られるように緑に恵まれ、またマリンスポーツからウィンタースポーツまで1年を通してさまざまに自然を楽しむ環境にあります。さらに仙台は学都としても知られ、東北大学をはじめ多くの大学等の学生が暮らす街です。このような仙台の地へ、志を共にする新たな朋を迎え入れんと願っています。

始めよう、君たちのグローバ





学部長あいさつ

東北大学歯学部で学ぶ世界最高水準の総合教育

古くから続く日本の歯科医療、今世界が注目する最先端の歯学を学び、口腔科学者・歯科医師を育成します。

インターフェイス口腔健康学とは、何か。

歯学部のカリキュラム

1、2、3年次のカリキュラム

4、5年次のカリキュラム

5、6年次のカリキュラム

大学病院

Canmpus Life

—歯学部生のキャンパスライフ—

卒業生本音座談会

歯学部附属歯科技工士学校

School for Dental Laboratory Technicians

Contents

01

03

05

06

07

08

09

10

11

13

14

ルインターフェイスの未来を。



古くから続く日本の歯科医療、 今世界が注目する最先端の歯学を学び、 口腔科学者・歯科医師を育成します。

世界と日本の歯学の歴史

18世紀、ヨーロッパで“近代歯科医学の父祖”といわれるピエール・フォーシャルによって総入れ歯や歯石除去などの近代的な歯科治療が行われ、19世紀に入るとアメリカでほぼ現代に近い歯科医療が始まったといわれます。ちなみに、アメリカにはジョージ・ワシントンの義歯が残されていますが、日本では、それより古い16世紀後半につくられた木床義歯が、発見された最古の義歯として残されています。それを見る限り、日本の歯科医療技術が高い水準にあったことがわかります。

1854年に日米和親条約が結ばれ、下田、函館が開港されるとともに外国人が渡来するようになりました。1860年には、アメリカ人ウィリアム・クラーク・イーストレーキーが横浜で歯科医院を開業。アメリカの歯科医師を通じて、欧米の近代的歯科医療に直接触れることができるようになりました。

そして1800年代末から1900年代初めにかけて、日本でも歯科医学校が設立され、歯科医師法が整備され、歯科医学会、歯科医師会が発足し、歯学が確立されたのです。黎明期、野口英世は高山歯科科学院で給仕をしながら学び、後には講師となって講義を行ったというエピソードも残っています。

1965年、東北大学歯学部発足

このような流れの中では、1965年に発足した東北大学歯学部の歴史は比較的新しいものです。しかし、その誕生、発展は「一口腔一単位」、「全人的歯科医療」の理念のもと、独自のものでした。この理念を診療体系に持ち込むとなると、様々な専門的視点からの診断・治療方針を総合的に取得選択しなければなりません。欧米には、例えば「I have four dentists」という言葉があります。歯科の専門化が進み、「4」は「プライマリーケア（口腔ケア）」「口腔外科」「補綴（歯の修復）」「エンドデンティスト（神経の処置）」のそれぞれの専門歯科医を指しています。つまり、歯学とは、様々な視点から顎口腔領域の健康と疾患を理解し、生体全体の中に位置づけ、その予防、診断、治療の方法を開発し、健康を維持増進させる学問なのです。東北大学歯学部の卒業生は、考える歯科医となり、最善の診療・研究・教育に日夜邁進しています。

[参考] 歯学の歴史と東北大学歯学部の歴史を詳しく知るには…

- ◆「歯の歴史館」(1981年 日本医療文化センター発行)
- ◆日本歯科医師学会ホームページ
<http://www.jsdh.org/>
- ◆東北大学歯学部同窓会ホームページ
<http://www.tohoku-dent-alum.jp/>

- ◆東北大学歯学部開設:「考える歯科医師の育成」「一口腔一単位」「全人的歯科医療」の理念提唱 **1965年**
- ◆東北大学歯学部附属病院開院 **1967年**
- ◆東北大学歯学研究科開設 **1972年**
- ◆附属歯科技工士学校設置 **1975年**
- ◆山本肇名誉教授「レーザー照射による齲蝕予防その他歯科応用に関する研究」で学士院賞 **1993年**
- ◆東北大学歯学研究科で、大学院重点化を実施「考究心」「科学心」をもつ指導的・中核的人材の育成を理念として提唱 **2000年**
- ◆東北大学歯学研究科で、「インターフェイス口腔健康科学」を提唱 **2002年**
- ◆東北大学医学部附属病院と歯学部附属病院の組織上の統合◆東北大学病院を開設 **2003年**
- ◆わが国唯一の歯学研究科修士課程を設置◆医歯学領域以外のキャリアの人材に口腔科学の専門教育を実施 **2004年**
- ◆第1回インターフェイス口腔健康科学国際シンポジウム開催 **2005年**
- ◆歯科病床、手術室の移転により東北大学病院附属歯科医療センターと改称 **2007年**
- ◆文部科学省「生体バイオマテリアル高機能インターフェイス科学事業」開始 **2007年**
- ◆附属歯科医療センターにインプラント外来設置 **2008年**
- ◆歯学部歯学研究科講義棟リニューアル完成 **2009年**
- ◆白沼轟夫名誉教授、文化勲章授章 **2010年**
- ◆東北大学病院外来診療棟に歯科部門として附属歯科医療センターが移転・統合 **2010年**
- ◆歯学部歯学研究科臨床研究棟リニューアル完成 **2012年**

歯学部・
歯学研究科の
歩み

近代歯科医学と 日本の歯科医学の 歩み

1723年	◆フランスで、ピエール・フォーシャル(近代歯科医学の父祖といわれる)が論文『LeChirurgien Dentist』発表
1728年	◆フォーシャル、上顎総入れ歯を製作
1840年	◆アメリカに、世界最初の近代的な歯科医学学校ボルチモア歯科医学学校誕生
1844年	◆アメリカで、笑気を用いた全身麻酔下での抜歯を施行
1846年	◆アメリカで、エーテル麻酔を用いて口腔外科手術を施行
1860年	◆アメリカ人ウィリアム・クラーク・イーストレイキー、横浜で歯科医院を開業 ◆アメリカの歯科医療に直接触れることができるようになった
1876年	◆瑞穂屋、わが国で初めて歯科器材をアメリカから輸入 ◆国内でも、歯科器械の生産始まる
1878年	◆1872年に私費留学した高山紀彦、アメリカで歯科医師開業試験に合格し、帰国
1881年	◆高山紀彦、わが国最初の歯科専門書『保歯新論』発行
1883年	◆医術開業試験規則が制定され、歯科が専門科目に ◆アメリカのミラー、「化学細菌説」を発表
1888年	◆日本最初の歯科医学学校である東京歯科医学学校設立(翌年閉校)
1890年	◆高山歯科医学院創立(1900年に東京歯科医学院に改称、1946年に東京歯科大学に改組)
1891年	◆アメリカのブラック、歯垢がむし歯の原因であることを発見
1893年	◆歯科医学会発足(1926年、日本歯科医師会と改称)
1902年	◆日本歯科医学会発足
1903年	◆東京帝国大学医学部に歯科学教室開設
1906年	◆歯科医師法成立
1911年	◆歯科医学専門学校設立
1916年	◆歯科医師法改正、医師の歯科医療行為を制限
1928年	◆「ムシ歯予防デー」実施 ◆東京高等歯科医学学校(現、東京医科歯科大学)設立 ◆国の歯科医師養成教育のスタート
1946年	◆HQの指示のもと歯科教育審議会発足
1947年	◆歯科医師国家試験実施
1948年	◆「歯科教育基準案」決定

在学生からの メッセージ



歯学部 4年
宮城県
仙台第一高等学校 卒
大堀さん

一見、歯は何も構造がない均一な物質に見えるかもしれませんが、顕微鏡で観察すると小さい柱や管が見えてきます。私はこのとき、単純ではない歯の構造を見て、人体の不思議さを感じました。さらに、この複雑な構造を考えて歯を削らないと、詰め物がはずれやすくなります。東北大学歯学部は、生命の神秘から知識に基づいた技術まで学べる面白い学部です。一緒に歯学の奥深さに夢中になってみませんか。

東北大学歯学部で求める人物 (アドミッションポリシー)

歯学部の教育目標は、単に歯科医師の養成にとどまらず、論理的な思考力を身につけ、各分野で指導的立場となる人材を育成することにあります。歯科医学の知識や技能を十分に修得できる基礎学力を有する人、問題解決や知識追求に対する意欲を持ち常に前向きに考え行動する資質を有する人、幅広い視野と柔軟な感性を有する人、医療に携わるものとして豊かな人間性を備えた人を求めています。



インターフェイス口腔健康科学とは、何か。

「インターフェイス口腔健康科学」の誕生

これまで歯学（歯科医学）として認識されてきた学問体系は、口腔疾患の治療論が主体であり、その病因論や根本となる基礎歯学はむしろ細分化され、体系化からはほど遠いものでした。2002年、東北大学大学院歯学研究科は、細分化されてしまった個々の専門分野を繋ぎ、口腔科学として体系化、すなわち再構築するために、「インターフェイス口腔健康科学」を提唱しました。

口腔は、「歯・粘膜・骨・筋等の口腔組織（生体）」、「口腔に寄生する微生物（パラサイト）」、「生体材料（バイオマテリアル）」の3つのシステムから成り立ち、この3システムに咬合力に代表される「生体応力（メカニカルストレス）」が加わることが特徴です。「インターフェイス口腔健康科学」とは「健全な口腔機能は、

システムとシステムの接するところ、すなわちインターフェイスが生物学的および生体力学的に調和することで成り立っており、う蝕や歯周病、顎関節症などの口腔疾患はこれらシステム間インターフェイスの破綻によって生ずる「インターフェイス病」として捉えられる」という新たな概念に立脚するものです。

加えて、口腔そのものが、体内と外界とのインターフェイスであり、誤嚥性肺炎や消化管感染症等の口腔関連疾患もまたシステム間インターフェイスの破綻に起因すると理解されます。

「口腔のインターフェイス」から「学問のインターフェイス」、そして「社会のインターフェイス」へ

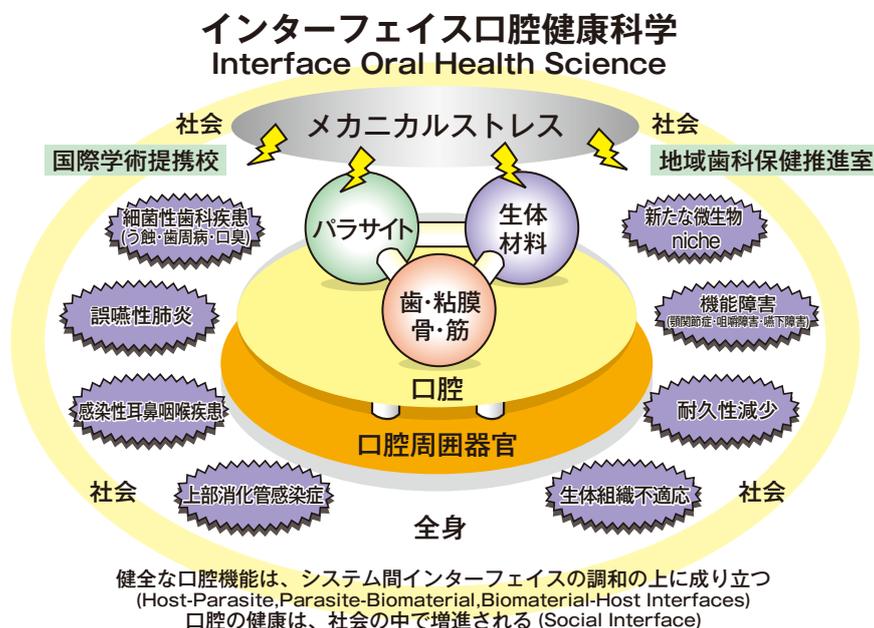
この概念は、口腔科学・歯科医療・口腔保健の領域を網羅するだけでなく、医学、農学、材料学、薬学など多岐にわたる学問領域に通ずるものであり、「インターフェイス口腔健康科学」の実践によって歯学研究のさらなる推進、そして関連領域との学際的研究の活発化が可能となります。2007年には文部科学省の事業として「生体-バイオマテリアル高機能インターフェイス科学推進事業」が認められ、東北大学金属材料研究所、九州大学応用力学研究所とともに、インターフェイスの制御を目指した新しいバイオマテリアルの研究・開発と臨床応用に取り組みました。さらに2012年からは「生物非生物インテリジェントインターフェイスの創成事業」が、その後継版として始まりました。これらは、既存の学問分野を接合し新しい学問を創成するという「学問のインターフェイス」の具現化なのです。

国際社会との双方向コミュニケーションが不可欠です。すなわち、地域住民の口腔健康状況を把握しそこにある問題点を解決し地域に還元すること、海外の口腔保健状況を把握し必要なことを導入するとともに、海外と連携し日本の研究成果を国際社会に還元することが必要なのです。東北大学大学院歯学研究科は、地域との連携を強化するために「地域歯科保健推進室」を設置し、海外との連携を強化するために米国 (Harvard University)、カナダ (University of British Columbia)、英国 (King's College London)、スウェーデン (Umeå University)、フィンランド (Oulu University)、アジア (北京大学、四川大学、天津医科大学、大連市口腔医院、福建医科大学、中国； ソウル大学校、全南大学校、韓国)、オセアニア (シドニー大学、オーストラリア) の基幹校と国際学術提携を結んでいます。これらは「地域社会・国際社会とのインターフェイス」として、大きな役割を果たしているのです。

さらに、健全な口腔機能を地域社会や国際社会で実現するためには、地域社会や

「インターフェイス口腔健康科学」の世界への発信

「インターフェイス口腔健康科学」の概念は、現在、次世代の歯学・口腔科学として国内外に広く認められています。2005年には仙台にて「第1回インターフェイス口腔健康科学国際シンポジウム (International Symposium for Interface Oral Health Science: IS -IOHS)」を開催し、国内外から多くの研究者が集まりました。その成果は英文書籍としてまとめられ世界に発信されています。第3回 (2009年) および第4回 (2011年) 国際シンポジウムでは仙台の地に加え、米国ボストンにてハーバード大学フォーサイス研究所と共同でサテライトシンポジウム Tohoku-Harvard-Forsyth Symposiumが開催され、「インターフェイス口腔健康科学」はますますその広がりを示しています。その基盤は、歯学・口腔科学の独自性と他の学問領域との普遍性を持つ独創的な研究への希求、そこに集う研究教育者と大学院生の情熱、そして国際的・学際的・融合的研究への指向という、歯学研究科が持つ特質にあるのです。



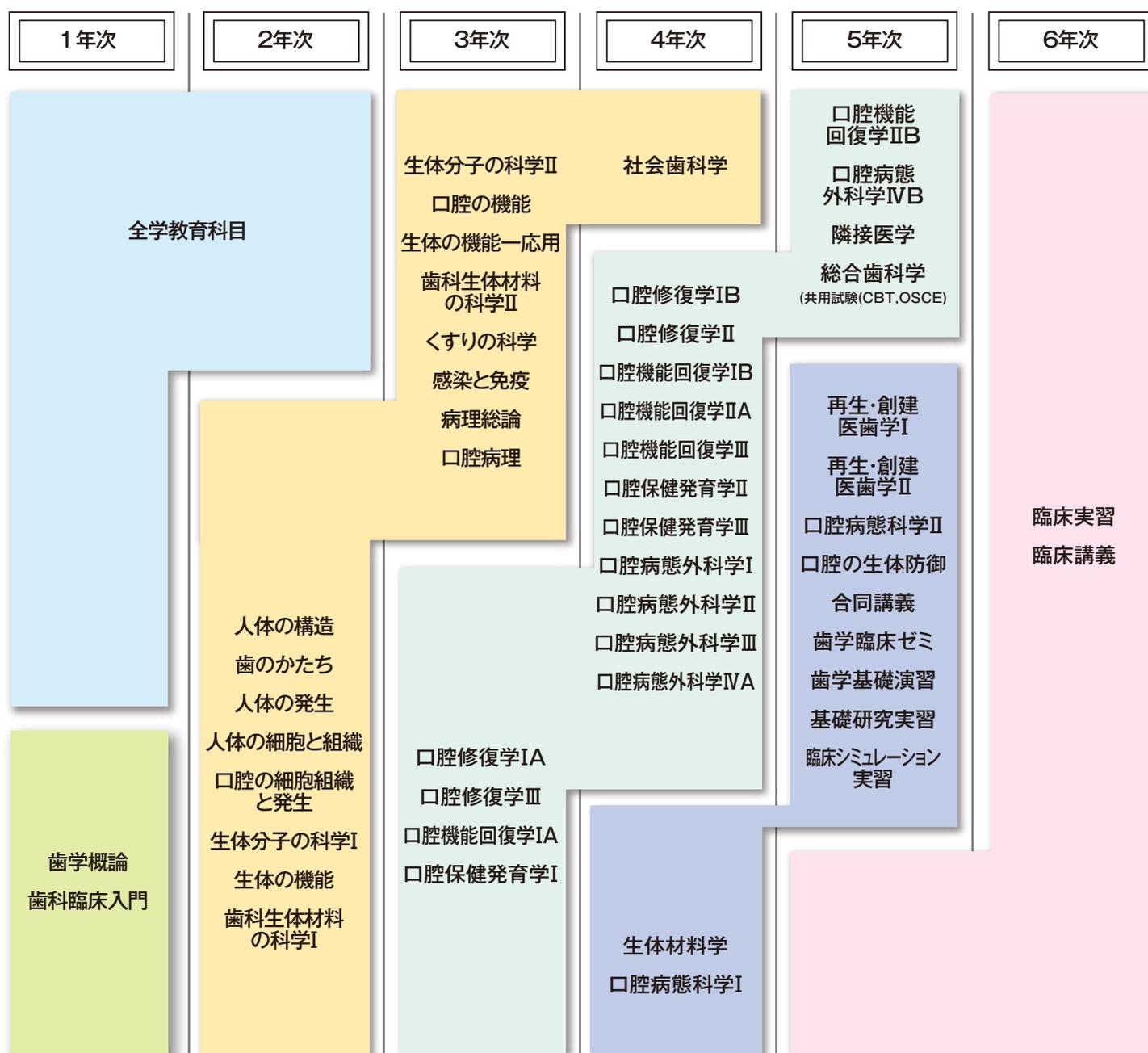
歯学部のカリキュラム

6年間で歯科医師として必要な知識と臨床技術を修得します。

本学部のカリキュラムは、早期に歯学・歯科臨床の概要を学び歯学生としての自覚を涵養する「導入科目」、歯科医師として必要となる基礎歯学と臨床歯学を学ぶ「コア科目」、東北大学歯学部独自の科目で大学院進学や高度専門職への準備となる「アドバンス科目」、そして歯科臨床の実体験を通して学ぶ「臨床実習科目」からなります。本カリキュラムは、

臨床実習前に実施される全国共通の「共用試験」に対応しているばかりではなく、歯科医師国家試験にも充分対応しています。さらに、「アドバンス科目」には大学院を先取りした「プレ大学院科目」として「歯学基礎演習」と「基礎研究実習」が含まれており、歯学部卒業時に、既に大学院で学ぶ考え方も身に付くように工夫されています。

6年間のステップ



■ 導入科目 ■ 全学教育科目 ■ コア科目[基礎歯学] ■ コア科目[臨床歯学] ■ アドバンス科目 ■ 臨床実習科目

1、2、3年次のカリキュラム

東北大学歯学部の学生は、1、2年生で、広い視野と柔軟な思考力をもった歯科医師になるために、人間形成の根幹となる基本的教養を学習する「基幹科目」、専攻する専門分野を学ぶうえで基礎となる知識と技能を習得する「展開科目」、外国語および保健体育などの「共通科目」からなる全学教育を受講します。全学教育では、小人数クラスで、総合大学である東北大学の全学部と全研究所の教員が開講する「基礎ゼミ」が必修で、広い学問領域から自分の専攻を超えて授業を選択します。一方、入学直後から最初の専門教育科目として、最新の歯学の概要にふれる「歯学概論」と歯科診療の現場を体験する「歯科臨床入門」との2つの導入科目を受講します。2年生からはコア科目と呼ばれる歯科医師となるために必須の専門教育科目が始まります。学生は、まず、解剖学、組織学、生理学、生化学、細菌学、免疫学、薬理学、病理学といった一般医学と同等の内容を含む基礎系科目を学び、その上で、口腔解剖学、口腔組織発生学、口腔生理学、口腔生化学、口腔細菌学、歯科薬理学、口腔病理学、歯科生体材料学などの歯科医学教育独自の基礎系科目を履修します。さらに3年生からは、歯科保存学、予防歯科学、小児歯科学、矯正歯科学など、臨床系科目も始まります。基礎系、臨床系とも、講義に加えて自ら体験して学習する実習の割合が高いことが歯学部のコア科目授業の特徴です。



授業紹介

「人体の細胞と組織」 「口腔の細胞組織と発生」

組織学授業「人体の細胞と組織」では、人体において、多種多様な細胞が秩序よく配列されて組織や臓器をつくり、さらに個体を構成することを学びます。口腔組織発生学授業「口腔の細胞組織と発生」では顎、顔面および口腔と歯のつき方と構成について、より詳しく学習します。どちらの授業でも、講義に加えて、顕微鏡で組織標本を観察する実習の時間があり、実際に自分の目で細胞や組織の特徴を捉え、所見をまとめる力を養います。



笹野 泰之教授

「人体の構造」「歯のかたち」



市川 博之教授

当分野は、人体、特に口腔領域の仕組みについての教育を行っています。「人体の構造」では人体解剖により人体の全身の仕組みや機能を理解し、「歯のかたち」では実物の歯(抜去歯)の観察により、ヒトの歯の形態を理解します。これらの講義や実習によって、歯科医師としての最も基礎的で必須の知識を身につけることができます。また人の生と死や医の倫理についても考えます。

「くすりの科学」

3年次「くすりの科学」では、歯科で頻繁に用いられる化学療法薬、抗炎症薬、解熱鎮痛薬、消毒薬のみならず、末梢神経系・中枢神経系、循環系、呼吸器系、消化器系に作用する薬物も含め、分子レベル、細胞レベル、個体レベルでの作用と作用機序を学びます。この科目を理解するには、2年次から学ぶ専門基礎科目の知識が必要です。



若森 実教授

「歯科生体材料の科学」



高田 雄京准教授

歯は、自然治癒や再生が難しいため、歯科治療の多くは人工の材料を使用し、かむ機能を回復させます。歯科生体材料学分野では、最先端の材料科学を駆使して歯科修復材料からインプラント材料まで新しい歯科生体材料の開発やこれらの材料の口腔内環境下における劣化と安全性などを研究しています。大学教育では、歯科の治療に用いられている歯科材料全域についての講義や実験を担当しています。

4、5年次のカリキュラム

4、5年生は最も多く臨床科目を学んでいく時期であるとともに、これまでに学んだ知識と技術を統合していく時期に当たります。4年生のコア科目では、歯科医師として診療をしていくのに必要な臨床科目が最も多く開講されます。ここで学生は、口腔の様々な疾患のメカニズムやその診断・治療法を学びますが、各科目には講義だけではなく模型実習が多く含まれています。5年生は東北大学歯学部独自のアドバンス科目が展開される学年で、最先端の研究成果に基づいた新たな時代の「口の科学」に関する様々な講義が行われると共に、これまでに学んだ知識・技術を統合していくために「歯学臨床ゼミ」、「合同講義」や「臨床シミュレーション実習」などが開講されます。また、臨床実習に必要な知識・技術・態度が十分に備わっているかを確認するためのテストであるCBTとOSCEが5年生の7月に実施されます。これは全国の歯学部学生に対して行われるものですが、これをパスしないと臨床実習に進むことはできません。またこれからの歯科医師は全身状態や疾患についての深い知識が要求されますので、5年生は「隣接医学」として内科学や耳鼻咽喉科学などを学ぶことになっています。さらに本学では、5年生の段階で歯学研究者としての基本態度を学ぶ「歯学基礎演習—基礎研究実習」を実施し、大学院レベルでの研究を体験することができます。この授業では、学生一人ひとりが歯学部の

基礎系分野を選択して研究室に所属し、約8ヶ月間に渡り、英語の学術論文の読解指導を受け、さらに研究の実践を学びます。この間、学生は教員にほとんどマンツーマンで接し、研究者や高度専門職業人として必要な「研究する心(リサーチマインド)」と「常に考える精神」を身につけます。この授業をきっかけに、臨床を科学する重要性を学ぶと共に多くの学生が研究に関心を抱き、卒業後に大学院進学を目指しています。



◀◀ 授業紹介

「口腔修復学Ⅰ」

口腔修復学Ⅰでは、保存修復学の講義と実習を行います。講義は総論と各論に分かれ、総論では保存修復に必要な前処置、窩洞形態の一般法則、徐痛法、歯髄保護、仮封、窩洞形成法を学習します。各論では、審美修復(接着性コンポジットレジン修復、ポーセレンインレー、漂白法)と金属材料によるインレー修復法を習得します。実習では、基本的なレジン修復症例とメタルインレー症例をシミュレートし治療姿勢、器材の使用法、窩洞形成法、修復法を習得します。



齋藤 正寛教授

「口腔病態外科学Ⅱ・Ⅲ」

口腔外科は、口腔および顎顔面領域の先天異常、後天性の欠損や損傷、口腔に現れるさまざまな疾患および全身疾患の一症状として口腔や顔面に異常をしめす疾患などの診断と治療および障害された形態と機能の外科的な回復を扱う学問であり、医科と歯科の境界に位置し、医科と歯科の双方の総合的な知識が必要となります。本講義では歯科医師として必要となる、これら口腔に現れる様々な疾患の種類、診断と治療法について最新の知見を教授します。



高橋 哲教授

「口腔保健発育学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」

口腔保健発育学では、2つの学年を通して、ひとの誕生から成人期までの口腔機能の健全な発育の誘導と支援について学びます。子どもの健全な口腔の育成は、生涯を通した健康の基となり、「食べる」「話す」「笑う」の生きる力の源となりますので、子どもたちを医療者として慈しみ健康を支援できるようにしっかり学んで下さい。本講義は、予防歯科学分野、小児発達歯科学分野、顎口腔矯正学分野、病院障害者歯科治療部が担当します。



小関 健由教授

5、6年次のカリキュラム



臨床実習は歯学部教育の最終課程と位置づけられています。5年生後半から6年生にかけての1年数ヶ月、実際に患者さんの治療を担当することにより、歯科医師としての知識・技術・態度についての総仕上げを行います。本学部の臨床実習は、建学以来「人間尊重」・「人間単位」の実習形態を追求し、その結果、「一口腔一単位」の臨床実習が行われてきました。「一口腔一単位」の意味するところは、単に個々の歯を治療の対象とするのではなく、人を対象として全人的見地から口の中を診査、診断し、包括的医療を実践する診療形態です。患者さん中心の歯科医療、患者さんに対する畏敬や思いやり、倫理観など医療人として身につけるべき基本を学び、併せて自己研鑽すなわち「人間形成」に努めるという教育理念がここにあります。この形態は東北大学歯学部独自のものであり、他大学からも高い評価を受け、現在では多くの歯学部・歯科大学で取り入れられています。

臨床実習では、約100名の教員（歯科医師及び医師）が実際の指導に当たっています。学生数に比べて教員数が多いことも本学部の特徴であり、学生にとっては恵まれた環境のなかで実習を受けることができます。



歯科実習用人型ロボットSIMROID®(シムロイド)



表情豊かで、おしゃべりなロボットです。なかなかの美人です。痛みや不快さを与えると、人と同じ反応をします。しっかりとした技術を練習しましょう。国立大学では唯一です。





東北大学病院総括副院長

笹野 高嗣 教授
 (口腔診断学分野)



大学病院

東北大学病院の紹介

東北大学では、医学部附属病院と歯学部附属病院を統合し、平成22年1月からは医科と歯科がひとつの病院のなかで連携して診療しています。病院統合の理由は、医科と歯科が連携することによって高度な医療が可能となることと患者さんの利便性です。口の中に症状を呈する病気の多くは、その原因が口そのものにありますが、ときに全身の病気の初発症状や随伴症状が口に現れる場合があります。一方、口の病気が原因となり、重篤な全身の病気を引き起こすこともあります。このような病気に対する医療では、医科歯科連携診療が重要となるのです。

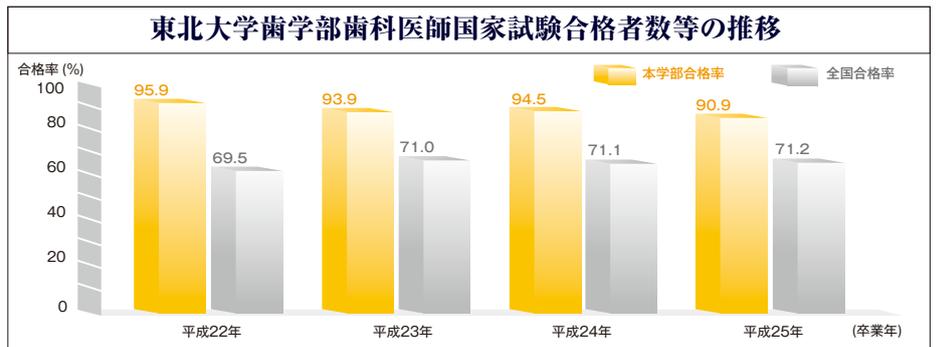
東北大学病院の外来患者総数は1日あたり約3,000名、入院患者総数は1,300名に及びます。この中で歯科部門の外来患者数は約600名を占めています。当院は全国でも有数の大規模病院であり、患者さんからの信頼が厚く、東北地方はもとより、全国、さらに海外からも患者さんが来院しています。

また、当院は、患者さんに優しい医療と先進医療の調和を目指し、最先端の医療技術の開発や着実かつ独創的な研究を推進しています。また、人間性豊かな医療人を養成する教育機関であり、医学部・歯学部・薬学部の学生教育はもとより、医師・歯科医師の臨床研修や生涯研修を行っています。

歯学部入学後は、東北大学病院で臨床教育を受けることになります。患者さんから多くのことを学び、世界の歯科医学・歯科医療をリードできる心温かい指導的人材を目指して下さい。

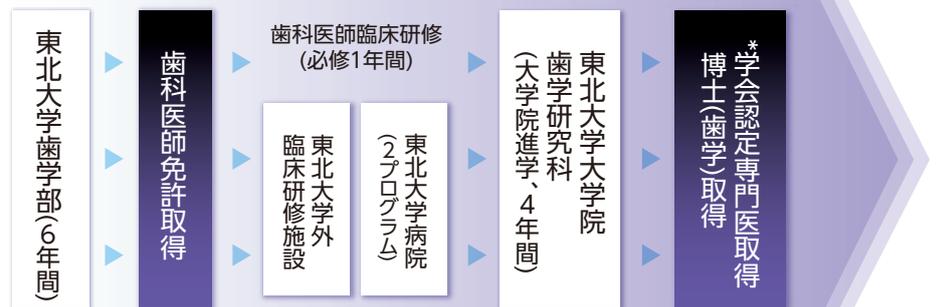


歯科医師国家試験合格状況



卒業後の進路

卒業後は、大学院進学、大学病院等の研修医、開業医勤務等、ほぼ全員が歯学研究または歯科医療に携わっています。



*多くの場合、学会認定専門医は数年間、指導医の元で研修することが必要となります。大学院生として指導医の元に就学すると、専門医取得が容易となります。



スケジュール

Campus -歯学部生のキ



歯学部 3年
工藤さん
(秋田県立秋田高等学校 卒)

3年次からはすべての授業が専門科目、勉強にサークル活動に、充実した毎日です

3年生になると、ほとんど毎日朝から夕方まで、びっしり専門科目の授業があります。授業のあとは、だいたいサークルかバイトで、帰宅は10時過ぎになってしまうので、レポートや予習復習は、サークルやバイトに行く前の時間に集中して取り組んだり、休日にまとめてしています。授業の中では、薬理学や材料科学が好きです。もともと化学や生命科学に興味があり、中学のころから将来は医療系に進みたいと考えていました。他大学に行く選択肢もありましたが、妥協せずここを選んで本当によかったと思っています。



▲歯科医療研究会での幼稚園の歯科健診の様子です。

授業後はサークルかバイトです。サークルは、書道部と歯科医療研究会に入っています。歯科医療研究会では、幼稚園の歯科健診の補助に行ったり、大学祭で無料歯科検診などを行っています。

将来は、研究者を目指しており、国内にとどまらずいずれは海外で研究したいとも考えています。



▲今日のお弁当は、サンドイッチです。



**歯学部
学生ラウンジ**
歯学部学生の
憩いの場です



▲書道部での習作です。硯に向かうと心も落ち着きます。

6:20 起床

朝は、パントです
お弁当も自分で作ります

7:30 通学

電車と地下鉄で
通っています

8:50~12:00 授業

12:00 昼食

学生ラウンジなどで、
友達とお弁当を食べます

13:00~16:10 授業

17:30 授業後

サークル、
バイトなど

22:00 帰宅

レポートや
明日の支度をします

1:00 就寝

歯学部サークル紹介

大学のサークルの他に、歯学部学生だけで構成されるサークルもあります。



準硬式野球部



サッカー部



バドミントン部



硬式庭球部



剣道部



軟式テニス部



フットサル部

s Life

キャンパスライフ

スケジュール



歯学部 6年
佐藤さん
(宮城県仙台第二高等学校 卒)

臨床実習は、今までの学習の総まとめ 合間に歯科医師国家試験の勉強をしています

5年生の秋から臨床実習が始まり、週1回の臨床講義以外は、毎日大学病院の外来で診療補助や実習生同士での診療練習などを行っています。実際の診療の現場では、今までに学んだ知識が問われるため、これまでの講義がいかに重要だったかを痛感しています。同時に、講義で習ったことを実際に見ることで、さらに理解が深まるという面もあります。

国試の勉強は、朝の臨床実習が始まる前や、臨床実習後の夜9時頃までの時間にしています。土日にも、国試予備校の講習や模試があります。

サークルは弓道部に所属しています。高校から弓道部でしたが、今年が学生時代最後の年になるので、夏に行われる全国歯学部学生の大会「歯学体」の出場を最後に引退します。

また、病院での実習も11月には終わるため、その後はいよいよ国試勉強一色の生活となります。



▲実習生同士で診療練習をします。

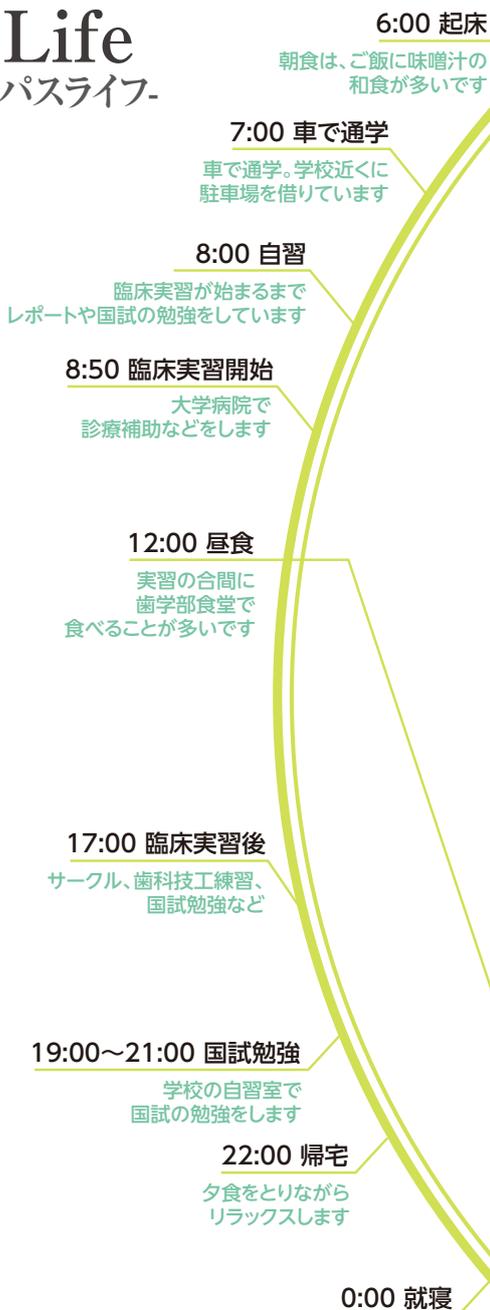
▲食堂では、かつ丼が定番です。

歯学部食堂

リニューアルされたばかりのきれいな食堂です



▲最後の試合に向けて練習にも気合が入ります



卒業生本音座談会



歯学部をめざした動機は？

大川さん 私は小学4年生のときに歯を矯正したのですが、そのときの先生がとてもやさしくて、その先生に憧れて歯科医になる決心をしました。受験勉強のときも先生に相談に乗ってもらったんですよ。

千葉さん 僕は困っている人を助ける仕事に就きたいと思った！

全員 え〜、本当に？

千葉さん いや、本当の話。もともと手先が器用だったから、自分の作ったもので人助けができればいいなあと思っていた。

井貫さん 僕はまったくみんなと逆で、医療系にはさほど興味はなかったけど、6年間学んでみてすごく興味がわいてきた。

入学して良かったところは？

蔡さん 東北大学は総合大学だから、他学部の仲間もたくさんできた。歯学の単科大学では、こうはいかなかったよね。

井貫さん 僕は兵庫から仙台に来て、最初は地域性の違いに戸惑ったりもしたけれど、仲良くなれた友人がたくさんできて良かったと思っている。

西山さん 私が入学を決めた理由の一つは、それだったんですよ。カレッジ(単科大学)では得られないことが、ユニバーシティ(総合大学)ではたくさんあると思っていた。

小田島さん 学部は50人ほどの少人数だし、6年間ずっと一緒だったからね。

岸川さん 仲良くなれないはずがないでしょう。

大川さん それに、東北大学は一人暮らし率が8割くらいと高く、みんな近所に暮らしているから、お互いの家を行き来したりして楽しかったよね。

井貫さん 宅飲みもしょっちゅうしたし。

西山さん 私たちは、この春に大学を卒業して、研修医として「総合診療室」に配属されました。ここは、色々な病状の患者さんを総合的に診察して適切な治療方法を決めるので、大学在学中に進みたい専門分野が絞り込めていなくても大丈夫。

岸川さん 私の場合は、矯正歯科に進もうと決めています。そして、大学院さらに研究を深め、認定医の資格を取得したいですね。

西山さん 東北大学の良いところは、医療人として純粋に学問を求道できる環境が整っていることにあるのではないのでしょうか。

岸川さん 大学附属の総合病院があって、大学院や研究機関も整っているから、医療に関する最先端の情報が集まってくる。とても恵まれた環境にありますよね。

高校生にひと言をお願いします。

西山さん 医者を目指す人は、命を助ける使命感に憧れるのだと思いますが、歯科医はいつまでも健康でいられるよう支え続けることが仕事。歯はあって当たり前、歯科医はその人が一生自分の歯でおいしく食べて、健やかで幸せに暮らすためのサポーターだと思います。そのような高い志を持った人に目指してもらいたいですね。

大川さん 「やるぞ!」っていう気持ちが大切。東日本大震災以降、今、東北は「やろう」というムードで盛り上がっているから、そんな意欲ある人を待っています。

蔡さん 歯科医の仕事は、きついのも事実。でも、頑張った分だけ感謝され結果はついてくる。だから頑張れる人が報われる職業だと思う。

岸川さん 一生学び続けなければならない仕事だけれど、それだけ奥が深いから楽しい。

千葉さん 最近、巷では歯科医が過剰だとか、歯科医離れが進んでいると言われているけれど、逆に言えば競争倍率が若干下がっている今こそがチャンスかも。

小田島さん いつ入るの？ 今でしょう〜!

井貫さん そう、今しか(歯科)ない。

全員 (笑)

座談会メンバー

- 井貫さん 兵庫県立宝塚北高等学校(兵庫県)
- 大川さん 東京都立戸山高等学校(東京都)
- 小田島さん 宮城県仙台第一高等学校(宮城県)
- 岸川さん 福島県立磐城高等学校(福島県)
- 蔡さん 宮城県仙台第二高等学校(宮城県)
- 千葉さん 岩手県立一関第一高等学校(岩手県)
- 西山さん 福島県立磐城高等学校(福島県)



歯学部附属 歯科技工士学校

School for Dental Laboratory Technicians



歯学部附属歯科技工士学校長

菊池 雅彦 教授

本校の教育理念

1. 東北大学の輝かしい歴史と伝統のもと優れた教育環境と高度なカリキュラムにより歯科技工界の指導者となる人材を輩出する。
2. 高い倫理観と使命感を備え幅広い視野をもって社会貢献できる高度専門医療人としての歯科技工士を養成する。

学校長挨拶

本校は、東北大学歯学部附属歯科技工士学校であり、東北・北海道地方で唯一の国立大学法人の歯科技工士養成機関です。本校は、東北大学歯学部が創立されてから10年後の昭和50年4月に、歯科技工界のリーダーとなる歯科技工士の育成を目標として設置されました。本校が設置されている星陵キャンパスは、仙台市の中心部に位置し、歯学部・歯学研究科、医学部・医学系研究科、加齢医学研究所、東北大学病院が集まって、東日本の医歯学教育と先端医療の一大拠点を形成しています。

本校の修業年限は2年間で、教育内容は非常に豊富で多岐にわたっています。歯科技工に関する知識と技能をもたない入学者を、2年後には国家試験に合格できるレベルにまで到達させるカリキュラムが組まれています。本校では3名の専任教員のほか、東北大学歯学部・歯学研究科の教授、准教授を含む多数の非常勤講師陣を擁し、様々な分野の知識や技術を教授しています。2年次には東北大学病院での臨床技工実習が組み込まれており、実際の患者さんに装着される技工作の製作から治療見学まで行う充実した内容となっています。

近年の歯科医療の発展はめざましく、コンピュータ技術の進歩に伴って開発されたCAD/CAM機器の歯科技工への応用のほか、新たな生体材料や骨再生を応用したインプラント治療などが歯科医療に取り入れられています。これら最新のテクノロジーに対応できる、人間性豊かで優秀な21世紀を担う歯科技工士の育成に取り組んでいます。将来、有望な歯科技工士となる意欲をもった学生諸君と本校でお目にかかれる日を心からお待ちしております。

カリキュラム紹介

本校の修業年限2年間のカリキュラムは、大きく4つの段階に分けられます。1年次の前期課程では、歯科医学の中から歯科技工士に必要な歯科英語や歯の解剖学、歯科理工学、有床義歯学、歯冠修復学などの講義と歯の彫刻実習が行われ、“歯を作る”ための大切な基礎を学びます。続いて後期課程では、主に歯列模型により実際の技工作を製作する実習が行われるようになり、歯科矯正学、小児歯科学などの講義や実習も加わります。2年生に進級後の前期課程では、実際に患者さんに使用される金属や材料などを使用し臨床をシミュレートした実習が行われ、後期課程では2年間の総仕上げとして東北大学病院での臨床技工実習が行われます。この臨床技工実習は、本校ならではの特徴的なカリキュラムであり、診療室で学生が自作した技工作の装着に立ち会うことにより、医療人としての自覚を促すとともに、卒業後にスムーズに就業できるような工夫がなされています。





ACCESS

仙台駅からの交通手段

[仙台市営バスご利用の場合]

仙台駅西口バスプール⑬番乗り場から

「山手町経由 桜ヶ丘七丁目行き」で、「歯学部・東北会病院前」下車

仙台駅西口バスプール⑭番乗り場から

「北山トンネル・中山経由 北中山・西中山行き」「北山トンネル・中山・泉ビレジ経由 住吉台・根白石行き」で、「歯学部・東北会病院前」下車

仙台駅西口バスプール⑲番乗り場から

「青葉通・大学病院経由 子平町-北山循環」で、「歯学部・東北会病院前」下車

[地下鉄ご利用の場合]

「北四番丁」で下車 北口2番出口より八幡方面へ徒歩約10分

東北大学大学院歯学研究科・歯学部

〒980-8575 仙台市青葉区星陵町4番1号

TEL.022-717-8248 FAX.022-717-8279

HP. <http://www.dent.tohoku.ac.jp/>

E-mail. den-kyom@bureau.tohoku.ac.jp (教務係)

